

教育目標		元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもの育成						
保育の視点		心豊かに自ら遊び込む子どもを目指して ～『自立』を支える教師の援助～						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の再編成 子どもの豊かな心を育む保育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 3年保育5歳児の教育課程を重点的に、また、3、4歳児についても見直ししていく。 遊び込む子どもを育成するための教師の役割や環境の構成を探るために「遊び込む子どもの姿」を日々の保育で捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の子どもの姿から職員で意見を出し合い、教育課程を再編成する。また、4歳児の検証をする。 遊び込む子どもの姿を捉え、実際の姿から検証し、共通理解をする。 2週毎の保育の話でエピソードを出し合い、遊びたいと感じている姿やそのきっかけについて話し合う。また、学期毎に事例研究を行う。 共同研究園とともに研究にせまっていけるよう、園内研究会や共同研修会などを計画的に推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出し合いながら各期ごと、学年ごとに細かく見直すことができた。 4歳児の検証については、実際の子どもの姿を見ながら話をしながら遊びや環境を考えていくことができた。今後は3年保育の4歳から5歳へのつながりなどを考えていく必要がある。 保護者アンケートでは、ほぼ全員が主体的に目的をもって遊び、一人一人の子どもの力が伸びるように保育指導に取り組んでいると捉えられており、子どもが遊び込む姿に向かっていることが伺える。 講師を招聘した園内研を計画実施することができた。指導助言から、内面の育ちを教師が読み取ることが大切だということがわかり、エピソードの取り方を見直す必要性が出てきた。 細かく打ち合わせや計画ができ、1学期より年長児が小学見学に行き、期待をもつ姿が見られた。 互いに保育公開や授業見学に行き、研修会にも参加できた。今後も、十分に意見交換をしながら連携し、見守っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各期、学年ごとに今後も見直しをし、職員で共有していく必要がある。 職員会の中で短期案の話しながら子どもの姿を元に育ちを共有していく。 共同研究園とともに引き続き「遊び込む子どもの育成」というテーマで研究を進める。子どもが遊び込むことで育っているということがエピソード研修を積みながら確かめていくことができるよう、エピソードを集約する。 保護者にもクラスだよりや懇談会や掲示などを通して子どもの成長を適宜伝えていく。 今後も年度初めに計画を立て、子どもの姿を見ながら交流していく必要がある。様子を見ながら連携し、細かく連絡をとりあう。 引き続き研修会などに参加しながら計画を見直し、実践していく必要がある。 	園内研や定期的な意見を出す場を設け「遊び込む」子どもの姿を共有されている。内面の育ちや小学校へつなぐ育ちについて今後も研修研究を進めてほしい。ブロック内の園や保育所・小学校とも園児の育ちを共有されたい。
	研究推進	<ul style="list-style-type: none"> 幼小の連携を意識した保育の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 幼小連携を図るために職員同士が互いの授業や保育を見合う機会を設ける。また、園内研究会などを通して学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼小の職員で意見交換を行い、共通理解する。また、それぞれの授業や保育に活かす。幼小交流の計画を元実践する。 				
豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 感染症予防に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿や実態を把握し、担任と養護教諭が連携し、保健指導(ほけんの話)を行う。また、その内容を基に、げんきカレンダーにも取り組んでいく。 園児への保健指導、保護者向けのほけんだより等で生活習慣について家庭でも考えられるよう啓発していく。また、より意識して取り組むことができるよう、げんきカレンダーを実施する。 「自分の体は自分で守る」ことを意識できるよう、視覚的教材等を活用し、啓発しながら自分の身体について興味関心をもちながら、感染症予防に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中で正しい生活習慣が身につく、子ども自身がその大切さに気づき、自らすすんで取り組もうとする。 保健指導を行っていくと共に定期的に家庭と連携を取りながらげんきカレンダーに取り組んでいく。 コロナ禍での体調管理をはじめ、規則正しい生活習慣を身につける、自ら、感染症予防ができるようになる。 保護者アンケートの「子どもはウイルスに対して自ら自分の体を守り、しっかりと手洗いがい等に励んでいる」の項目のABの評価が80%以上になるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> トイレ習慣やお箸の扱い方、身だしなみを整える事など家庭と連携して行わないといけない事の協力が不十分で引き続き指導が必要な子どもが多い。 「げんきカレンダー」の取り組みについては、子どもの実態からの課題に沿い、取り組めることが出来た。子ども自身が「早寝早起きしたよ!」と自身の健康管理について意識づいていることがよくわかる。 アンケート結果は95.6%の評価を得ている。 手洗いうがい消毒等は、毎日継続して行っている、どの子も習慣が身につけている。 マスクの着用については、感染症対策も緩やかになり、外あそびや友だちと距離が保てる場合など適時外すなどして対応出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけることの大切さや具体的な方法についての啓発が少ないことも家庭との連携が進まない要因でもある。全体への啓発もだが、個別に幼稚園での指導方法や取り組みを丁寧に伝え、園と家庭が協力し、子どもの健やかな成長を支えていくようにする。 「げんきカレンダー」の取り組みは子ども自身の意識を高めるためにも必要なので定期的な活用を継続する。 コロナ対策については、子どもの活動を制限するのではなく、基本的な感染症対策をしつつ、教育活動を進めていく。 	基本的な生活習慣を身につける事は大切。園での引き続きの指導を望む。「元気カレンダー」の取り組みはとても良いこのまま継続が必要。
	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりや伝え合いに視点を置いた保育実践 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう園が拠点となって呼びかけていく。 花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整え収穫の喜びや命の尊さ等を感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへは日々の生活の中で自分の気持ちや友達の思いなどを振り返り気付く機会をもつ。 保護者へは学級懇談会や研修の機会に自身の子育てを振り返り、いろいろな立場の人の考えに触れられるような場を設定する。 花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整える。 飼育栽培活動を行い、命を大切にしている経験ができるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスを通して、幼児の思いを読み取る大切さを職員間で共通にし、一人一人の気持ちを大切に保育に努めた。 SNSの扱い方という観点から全保護者を対象に書面研修を呼びかけ、学級懇談会を通じて、様々な考えに触れてもらい、子育てにも関わるものであるということを啓発することができた。 夏には野菜や花を、冬には春に咲く花を栽培している。幼児が栽培の準備をする機会をあまりもてていないが、飼育に関しては、うさぎの飼育当番活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も一人一人を大切に保育に努められるよう、教師間で共通理解を図る。 書面研修を通して、クラス懇談で語り合う大切さを感じたので、引き続きコロナ禍においても研修や懇談会が行えるよう工夫することが必要である。 飼育、栽培活動において、準備の段階から植物の成長や生き物の命の大切さに気付いて幼児自らが行動したくなるように計画的に保育に取り入れていく。 	今後も一人一人を大切に保育、保護者対象の研修会を実施し人権意識の命を大切に教育をしてほしい。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの特性に応じた保育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児理解に努め、子ども同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。 地域の特別支援教育の拠点として、特別支援教育に関する保育や情報を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿に応じて、具体的な支援方法や保育内容を検討し、実践する。また、保護者と園の取り組みや家庭での様子を伝え合い、園と家庭が連携して子どもを支えることができるようにする。 コンサルテーション等を活用し、園内だけでなく他方面からの子どもにとらえと支援方法を検討していく。 にじいろ広場の保育の様子を地域の就学前施設に公開し、参加の呼びかけをする。またにじいろだよりを発行・HPで掲載し、にじいろ広場での子どもの姿や遊びのねらいを保護者や地域の教職員に伝える。 特別支援教育の研修会への参加や保護者研修会を実施し、保護者、教職員共に子どもとの関わりや支援方法をより深く学ぶ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担任と担当者が連携し子どもの育ちや課題を共有することで、子ども一人一人の育ちや課題を共通理解しながら関わることができた。 また、保護者にも園での様子や取り組みを伝え家庭での様子も聞くことにより、園と家庭が連携することができた。 コンサルテーションを活用し、他方面から子どもにとらえと支援方法を学ぶことができた。 にじいろ広場を年間予定通り8回開催することができた。保育後に遊びのねらいや家庭でもできる触れ合い遊びの紹介等特別支援の情報を保護者に伝えることができた。 にじいろだよりを10回発行し、保護者に遊びの意義を発信することができた。 学期ごとに年間3回保護者研修会を実地し、保護者教職員共に、子どもとの関わり等をより深く学ぶことができた。 にじいろ広場の遊具やねらい、保護者研修会の内容などをホームページで10回発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コンサルテーションや園以外の他機関からの学びはとても有効であったので、来年度も巡回相談などを含めて活用し、子どもの育ちを支えていく。 今年度も遊具や書籍の貸し出しを行ってきた。貸出図書を新たに購入し、コーナーにポップをつけることで、利用者が大幅に増加した。遊具の貸出に関しては0だった。今後にもにじいろ広場の保育公開を行う中で、保育内容のねらいや遊具の使用法等を積極的に発信していく。ホームページでも貸出遊具や図書を掲載し、見やすく借りやすい環境を準備する。 	特別支援教育の拠点園として積極的な取り組みが見られる。にじいろ広場では、保護者への発信も熱心に行われている。引き続き積極的な情報発信を。
開かれ信頼される学校園	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育等子育て支援の充実を図るため、さらに保護者、地域、園の連携を強める コロナ禍での保護者との連携の取り方を工夫し、園の様子を発信することで園教育への理解を図ると共に、必要に応じて気軽に子育ての話ができるような体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者や担任と必要な引き継ぎを行うことで連携を密に図り、必要に応じて各職員もサポートに入って共に子どもの様子を見ながら共通理解を図る。 子ども達がいきいきと遊ぶためには環境が大切であることを伝えとる共に、地域やPTAと連携し保護者と一緒に園の環境整備を行う。 HPの定期的タイムリーな更新、配布手紙、写真掲示等、その時々に応じた方法を工夫し、園の教 	B	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて預かり担当以外の職員も関わりながら職員間で連携を取り合い、預かり保育の充実を努めた。保護者の就労が増加傾向にあり、年度途中から利用者が増えた。今後も安全管理に配慮しながら取り組んでいく。 PTA活動や保護者のサークル活動を中心に、絵本の読み聞かせや返却時の補助、掲示板の装飾等、また、園の環境整備、運動会ややきいも大会のなど力を借り、連携しながら共に保育に取り組んできた。 ガス便り、HP写真掲示等で園の様子を 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、担当者との連携を密に図りながら必要に応じて全職員で預かり保育に関わることで子育て支援の充実に取り組んでいく。 今後も保護者の得意分野を活かして保護者の力を借りながら、保護者と連携を取り、園をよりよくしていく。 今後も引き続き、コロナ禍での保護者・地域との連携のあり方を探り、工夫して取り組んでいく。 	地域の子育て支援拠点としての積極的な情報発信と保護者・地域・小学校等との連携に引き続き取り組んでいきたい。	

				育や大切にしていること、園児の様子等を発信する。		信してきた。「園の情報をわかりやすく伝えていく」という保護者アンケートにおいてもABの評価が90%であった。今後、タイムリーな更新に努めていきたい。	・地域の小学校、保育所等と研修会や園児の交流の仕方を模索し、拠点園として、発信を続けていきたい。	
その他	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り 感染拡大防止への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検日を園だよりに記載して位置づけ、職員の意識向上を図る。 様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を定期的に設ける。 保護者、地域と共に安全な環境作りに努める。 定期的な消毒、換気を行い、感染防止に努めると共に、その時々状況に応じた保育の工夫、行事の持ち方の検討を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に安全点検を行うことで、全職員の目で日頃から安全管理に努め、遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。 学期に1回以上の避難訓練を実施し、子どもが自分で自分の身を守る方法を知る。 保護者や地域の方の協力も得て園庭清掃に取り組む。(6月・8月・3月予定) 市の方針の下、感染防止対策を適切に行う。 感染防止への意識が高まるよう保護者に必要な啓発を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の安全点検を行い、修繕箇所については、すぐに連絡調整を行い改善に務めた。 計画通りに避難訓練を実施し、子ども達自身が緊急時に周りの大人の指示に従い行動できるようになっている。 職員訓練として伊丹警察と連携し防犯訓練を実施した。 園庭の環境整備の為に保護者や地域の方の協力を得て園庭清掃を行うことが出来た。 保護者や地域の方にも行事や参観日等にきていただく事で、幼稚園での感染症対策の実態を知っていただく機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 園舎や園庭を含めて老朽化もあり、いたる所で不具合が出てきているので、月1回の安全点検以外の日々の生活の中で常に安全意識を持ち、改善箇所については速やかに伝え、共通理解出来るようにする。 最近、様々な形の事件が増えているので、職員は常に意識するとともにいざという時の連携体制を整えておく。 幼稚園で講じている安全教育や安全対策について保護者にも定期的に啓発し、園内園外問わず子どもを取り巻く大人が子どもを守るという意識を高める事が出来るように働きかける。 	安全教育や防災教育危機管理についても小学校と連携していくといい。
総合評価	<p>(関係者総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何度か園行事に参加しました。園庭清掃では、職員・保護者・子ども・地域の人が一体となり園の環境美化に取り組み地域連携が出来ている。 オープンスクールの様子では、子ども達が秋の木々を使い創意工夫した作品が見られ、発達段階に応じた保育が行われている。 伝承遊びでは、子ども達の興味関心が高く地域の方と一緒にふれあう機会となり、子ども達が互いに教え合う場面もあり仲間作りが進んでいると感じました。また、伝承遊びを通して文化の創造と文化の伝承に関心を持つ子どもが増えるといいですね。 おぎの幼稚園はいつ行っても子ども達が元気に遊び生き生きとしています。知・徳・体のバランスのとれた教育の基礎が培われている様に思われます。ひいてはこれが生きる力となるでしょう。コロナ禍で大変な時、対策を講じながら教育に専念されていることに感謝します。 子ども達の様子やエピソードを出し合い、研修を行う中で子ども達の主体性や遊びに夢中になる姿が見られるようになっていく。今後も一人一人の子どもの実態に応じた支援をし、保護者・地域関係機関と連携しながら安心安全で子どもが力を伸ばせる保育を進めていきたい。 <p>(今後の取り組み・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が物事に意欲的に取り組み遊び込む姿につながる為に、今年度から「遊び込む」に視点を置いて研究を進めているが、共同研究園と共に子どもの実態から遊び込む環境構成について工夫したが引き続き、環境や教師の援助について探っていく、主体的に活動できる子どもを育てる。 保護者・地域の力を活力とし、園運営に取り組むために、行事だけでなく幼児教育・おぎの幼稚園の取り組みを具体的に発信していく。 							